

施策番号	2706		
施策名	水辺環境の整備		
概要	河川の整備等により浸水被害リスクを軽減させ、都市型水害の最小化をめざすとともに、概ね10年に1回起こりうる洪水に備えた治水対策を進める。また、市民に身近な水辺環境の創出をめざす。		
担当局・部室	建設局・土木管理部	共管局・部室	
上位政策	27 暮らしの水		
施策に関する主な分野別計画等	京都市水共生プラン，京都市河川整備方針		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		平成30年度	令和元年度	令和2年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウェイト
1	平成16年記録的豪雨時の河川浸水被害箇所解消率（％）	a	b	95.5	95.8	97.7	98.1%	d	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
客観指標総合評価		a	b					d	

2 市民生活実感評価

設問		平成30年度	令和元年度						令和2年度※
			評価	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない	
1	京都の河川は水がきれいで、水辺に親しみやすい。	a	a	193 27.1%	307 43.1%	149 20.9%	41 5.8%	22 3.1%	712 -
2	大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。	b	b	219 32.2%	227 33.4%	109 16.0%	61 9.0%	64 9.4%	680 -
3	-	-	-						-
4	-	-	-						-
5	-	-	-						-
市民生活実感調査総合評価		a	a						-

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により調査を一時休止しています。

<総合評価>

平成30	A	令和元	B	令和2	C	施策の目的がそこそこ達成されている
重み付け	☒ 客観指標	治水対策は、概ね10年に1回の確率で起こりうる洪水に対応することを目標としており、たとえ実際に洪水が起きず、市民が浸水被害の発生を実感しなくとも、行政の責任において遂行すべき取組であるため、客観指標評価を重視する。				
	☐ 市民の実感					

<原因分析>

客観指標総合評価

☐ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。

☒ c評価以下であり、次の原因が考えられる。

河川改修に伴って、隣接する道路に埋設されている複数のインフラ設備を移設する必要性が生じたが、その移設作業に時間を要したため、進捗が遅れた。

市民生活実感調査総合評価

☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。

☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>（令和元年度又は令和2年度新規事業）

	事業名	事業費の状況(千円)		令和2年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		令和元年度 決算額	令和2年度 予算額		
1					
2					
3					
4					
5					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・工事の実施に当たっての事前調査及び関係機関との調整を十分に図りながら、河川ごとの特性を踏まえた普通河川整備プログラムに基づき、河川改修等の浸水対策工事を実施するとともに、引き続き市民に身近な水辺環境の創出をより一層推進していく。

施策名	2706	水辺環境の整備				
指標名	平成16年記録的豪雨時の河川浸水被害箇所解消率（％）					
担当課	河川整備課		連絡先	2 2 2－3 5 9 1		
1 指標の説明						
平成16年の記録的豪雨の際に河川からの溢水による浸水被害があった河川の改修実施率						
2 指標の意味						
浸水被害の低減に向けた河川の整備状況を示す指標			3 算出方法・出典等			
			算出方法：H16浸水被害河川整備延長÷H16浸水被害河川計画延長×100 出典：事業担当課調べ			
4 数値						
	前回数値 平成30年度	最新数値 令和元年度	推移	目標値		
				数値	根拠	達成度
数値	95.5	95.8	0.3ポイント増	97.7	中長期目標までの残年数内に目標を達成するために当該年度に達成すべき数値	98.1%
	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値	-	100	令和2年度	95.8%	平成16年度浸水被害発生河川における中長期目標年度の目標改修率	
5 評価基準						
最新値をx、（目標値-前回値）をyとしたとき、 a：目標値≤x b：前回値+y*2/3≤x<目標値 c：前回値+y*1/3≤x<前回値+y*2/3 d：前回値<x<前回値+y*1/3 e：x=前回値			6 基準説明			
			目標値を達成することは不可能ではないが、財政状況の寄与度が高いことから、目標値以上の達成をaとし、5段階に基準を設定した。			
7 評価結果						
平成30		令和元	令和2			
a		b	d			